

景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう

<http://www.tda-j.or.jp>

2013-12-01

目次

- 表紙
『旧万世橋駅』が歴史を残しながら
新たな商業施設に
／(写真・文) 栗原 裕
- 見開
TDA NEWS
「第8期定期総会及び記念シンポジ
ウム『景観と文化』報告」／高橋 徹
- 見開
ランドスケープ事情
「京都ヨドバシビルにおけるランド
スケープ的配慮」／谷口 勝之
- 裏表紙
景観文化Q&A
「シリーズ団地再生 その4」
／江川 直樹
- 裏表紙
景観ビジネス最前線
／ヨシモトポール(株)
- 裏表紙
ホワイトボード



背景のビルは一体に開発された「JR 神田万世橋ビル」

『旧万世橋駅』が歴史を残しながら新たな商業施設に

「万世橋駅」は、かつて中央線の始発駅であった。1889（明治22）年4月11日に立川～新宿間を開通させた甲武鉄道は、1906（明治39）年の鉄道国有法により国有化され、1912（明治45）年4月1日に昌平橋～万世橋間を開通、この時中央本線の始発駅としての「万世橋（萬世橋）駅」が開業した。当時の駅舎は東京駅と同様に辰野金吾の設計で、1等2等待合室、食堂、バー、会議室等を備えた豪華な赤煉瓦造りであった。1919（大正8）年に万世橋～東京間が開通するまで7年間中央本線の起点であった万世橋駅も、関東大震災で駅舎が焼失し、1936（昭和11）年には鉄道博物館（後の交通博物館）が併設され、1943（昭和18）年に休止（実質上廃止）となった。その後、交通博物館も2006（平成18）年に閉鎖され解体されたが、赤レンガの万世橋高架橋とともに南側ホーム、1912（明治45）年に作られた階段、1935（昭和10）年に作られた階段が残されている。

2013（平成25）年1月に交通博物館の跡地にJR神田万世橋ビルが建設され、同年9月に旧万世橋駅の高架橋等の遺構を新たな商業施設として整備し、「mAAchecute（マーチエキュート）神田万世橋」が開業した。

鉄道の遺構を残しながら、新しい機能として蘇生させる「まちづくり」の手法は記憶の継承として景観上も極めて重要である。駅としての機能はないものの旧プラットホーム（カフェ）から電車が眺められる等、過去と現在を繋ぐ空間として成熟することが望まれる。

ちなみに、隣接する神田川に架かる「万世橋」は、1930（昭和5）年に長さ26m、幅36m、石及びコンクリート混成のアーチ橋として架け替えられたものである。

TDA正会員・シビルデザイナー 栗原 裕

特別レポート 第8期定期総会及び 記念シンポジウム『景観と文化』報告 前 TDA 代表理事 高橋 徹

NPO 法人景観デザイン支援機構（以下 TDA）の第 8 期定期総会が開催された。会場は浅草雷門の向かい、隈研吾氏設計による話題の建物の浅草文化観光センターで行われた。併せて、記念シンポジウムが開かれ、「景観と文化」の基本テーマの下、基調講演を環境デザイナーの中嶋猛夫氏、パネルディスカッションは TDA 会員の倉田直道氏、高見公雄氏、進行役に杉山朗子氏のメンバーで行われた。TDA はこの 11 月から、宮沢功氏を新代表に選出し、役員も新メンバーが加わり新たにスタートする。今後とも、皆さまのご支援、ご協力をよろしく願いたい。



ランドスケープ事情



外壁デザインと低層部のステンドアート



エントランスと遊歩道

第 8 期定期総会報告

日 時：平成25年10月12日(土)
会 場：浅草文化観光センター
5階大会議室

■第 7 期事業報告

機関誌「景観文化」を 4 回発行、第 7 期定期総会記念シンポジウムを「景観と文化」をテーマに、都市デザイナー 国吉直行氏の基調講演とパネルディスカッションを行った。TDA サロンとして、天然系素材を用いた景観製品開発とその可能性について議論し、会員ならびに意欲ある中小規模メーカー開発担当者との交流会を計 6 回実施した。また、特別サロンとして、1960 年代以降の都市景観デザインの歴史を、都市デザインの様々な専門分野からの記録と評価を行う目的で「都市デザイン史ワークショップ」を開催した。他団体との連携事業として、吉祥寺の街見学と「食と色」のテーマで CBN との交流会を開催した。

■第 8 期事業計画

第 8 ～ 9 期の理事として 9 名選任した。理事再任 5 名（宮沢、吉田、藤浪、粕谷、山内）、新任 4 名（曾根、倉田、西田、鈴木稔）の諸氏である。今後、実行体制や各事業の詳細については新役員による検討を行い決定する。なお、経費削減のため、事務局として借りていた鳩森ビル 304 号室の賃貸契約を本年 11 月末で解約する。それによって事務局活動の拠点や会議室を新たに探す必要が生じることになり、今まで以上に会員事務所の支援と協力をお願いし

たい。また、事務局規定を明確にして、今後の事務局体制の強化を図る。景観講座の記録誌についてはデジタル版での完成を来年 3 月ごろまでに行う予定である。

1

基調講演

「日本の歴史的都市景観と現代」



中嶋 猛夫 氏

環境デザイナー
女子美術大学名誉教授

講師の中嶋氏は、東京芸術大学工業デザイン専攻を卒業後、京都の歴史的建造物での造園修行のあと、プロダクトデザインからランドスケープデザインまで様々なデザイン分野の計画、設計実務に取り組みされている。歴史的景観の見方については、フランス人の文化地理学者オギュスタン・ベルグ氏が言う「景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年」という長いスパンで考え、その歴史的価値観を捉えることが重要であると指摘された。

日本の歴史的都市景観の特徴を表す第一は城下町に見られる。城下町の景観の骨格は天守閣を中心とした城山と軸線で構成され、そこに象徴的な社寺が配置されるのが基本である。京都で、五条通りの正面に清水寺が置かれているが、実は京都が都になる前から存在する山岳寺院であった。清水寺の舞台から市街を俯瞰すると気づくが、それは京都の街全体を見渡す戦略基地であったといえよう。京都の街を囲む山々に灯る夏の送り火を見て先祖供養するという、都市全体を包む景観の楽しみ方は世界

「京都ヨドバシビルにおけるランドスケープ的配慮」

京都ヨドバシビルは、かつて丸物（近鉄）百貨店として京都市民に親しまれた京都駅前の一角に 2010 年 11 月にオープンした。施設は、ヨドバシカメラを核施設とする大型複合商業施設の本館と駐車場出入口となる別館で構成されている。周辺は東本願寺、枳殻邸などの歴史的史跡と古い町屋、近代的な建築が共存する地域である。

これらの場所性を踏まえて、施設の外観にはこれまでのヨドバシカメラのデザインを踏襲しつつ、京都らしさを表現する新たな工夫が取り入れられている。インド産御影石による濃淡のストライプとより細かいピッチで構成されたアルミ押出材の外壁デザイン、低層部の石積アーチに組み込まれたステンドアートのデザインは、京都の繊細さと華やかさを表現している。また、エントランス上部の糸屋格子のモチーフ、烏丸通に面したヴォールト天井を持つ遊歩道などは、京都を感じさせつつ居心地の良い半外部空間を提供している。

●歴史的な街並みへのサインデザインの配慮

現在の京都市の景観条例では、通りごとに重みづけの異なる歴史的街並みの規制がかけられている。特に駐車場の出入口がある七条通り側では、周辺の歴史的街並みの連続性を壊さない形での計画を要求された。つまり単純な駐車場ゲートではなく、町屋風のデザインの建築物を建てることを京都市から要求されたのである。京町屋の意匠をしっかりと作り込んだ集合住宅をつくることで、商業施設の駐車場ゲートとして存在感のある町屋風の

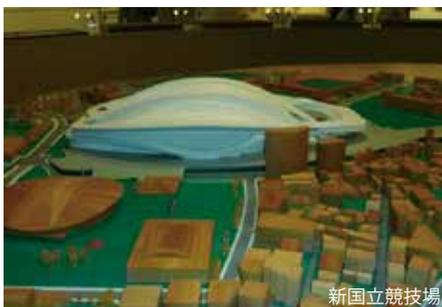


小倉城とリバーウォーク北九州

的にみても面白い。現在の景観は京都駅の巨大さが際立ち、東本願寺などの歴史的建物の陰が薄く、烏丸通りからのビスタも止められている。ドイツのシュツツガルトは周りを丘で囲まれた街であるが緑化計画と高い建物を禁止し、風を街中に導くことや各種の景観計画を有効に実施している。

九州の小倉城周辺は歴史的景観保全地区であるが、隣接して店舗、劇場、シネコン、NHKなどを含む複合商業施設ができた。外観デザインはアメリカのデザイナー、ジョン・ジャーディーによる赤・黄・白・黒・茶の外壁の歴史的地区の景観とは調和しない施設が出来ている。

地域全体で伝統的景観を保全する運動は1990年代ごろから法的な整備がされるようになったが、まだまだ問題を抱えている。



新国立競技場

2 パネルディスカッション
「景観と文化—風土・歴史・生活と景観」

中嶋 猛夫 氏
環境デザイナー／
女子美術大学名誉教授

倉田 直道 氏
都市デザイナー／
工学院大学教授

高見 公雄 氏
都市デザイナー／
法政大学教授

杉山 朗子 氏
(進行) カラープランナー／
TDA 副代表理事

冒頭、倉田氏より、神宮外苑にあってコンペで選ばれた新国立競技場の問題は歴史的都市景観を考える良い機会ではないかとの問題提起から始まった。これは神宮外苑が持つ歴史的価値と同時に、これと似た状況は、日常的に身近なところで起こり得ることもある。歴史的景観は、文化財の存在ということだけではなく、人々の暮らしや営み、価値観が総合的に生み出したものである。今回は、高さ75mの建物提案に対して、風致地区に相応しいかというスケールの問題もある。神宮の柱に対するいろいろな人々の思いからつくられる価値観に沿ったものであるべきだと考える。

高見氏は、今回の建築家達の疑問、反論は実際にはマスコミ等では注目されておらず、むしろスポーツで社会全体が盛り上がっているときに水を差すのはまずいという風潮があると指摘する。また、基本的な問題として2点あげた。一つは、神宮のもつ歴史的価値と、社会をスポーツで盛り上げようと言う二つの違った価値を天秤にか

け判断しようとしていること。二つ目は、社会の総合性が劣化してきたこと。今回はオリンピック招致の人達が突っ走り、都の景観審議会など関係すべき機関が無視されたこと。横文彦さんが指摘するプログラムの問題として多様なチェックが働かなかった。

議論は杉山氏の進行の下、フロアーも交えて活発な議論となった。曾根幸一氏は、バルセロナオリンピックの際は、ソラ・モラレス一族の思想を受け継いだボーガスが中心となって政策としてオリンピックを通して街がどうあるべきか考えた。東京にはそれが残念で、今回の問題をとらえて景観・建築論争を起こすべきで、景観を市民に知って貰う機会にもなる。中嶋氏からは、都市景観を語る時は文化・文明の視点が大事で、古代ローマからの古い街並みをもつオーストリア グラーツでは、黒いナマコのような新しい美術館が出来たが、建設委員会では21世紀につくる美術館のあり方の議論を十分にさせてから決められたという。多様な人々が関わり議論してつくられることが重要で、残念ながら日本では未だ十分されていない。伊藤登氏から日本では必ず二項対立して考えられてしまう。例えば、伝統的建造物保存地区に指定されると古いものを守ることはできても、そこに新しいものをどう入れて、街を豊かにするかという議論はされない。このことに対して、JUDIやTDAでは何かメッセージを送るべきではないかの課題がだされた。

谷口 勝之 鹿島建設(株) 建築設計本部 チーフアーキテクト



ヴォールト天井の遊歩道



駐車場側の壁面緑化

ゲート型集合住宅が生まれた。また、メインファサードとなっている烏丸通に面して設けられた千鳥格子のサインデザインは、厳しい景観規制に対して、京都らしい新しいサインのあり方を模索した結果生まれたものである。

●壁面緑化による周辺路地空間への環境配慮

古い街並みや、七条警察署の塀や駐車場に囲まれた本館北側と西側は石張りの外壁で仕上げられる予定で工事が進んでいたが、オーナーの一言で全長約150m、高さ7mの大規模な壁面緑化を設けることとなった。あまり例を見ない大規模な壁面緑化は、駅前とは言え古い住宅の残る周辺路地空間に潤いのある環境を提供しようというヨドバシ社長の思いの実現でもありました。

サントリーミドリエの協力により実現したこの壁面緑化には、京都古来の植生の残る『糺の森』に習った植栽がレイアウトされ、万葉集・源氏物語にも歌われた植物が集められている。元来、この地で生息する植物をレイアウトすることで、無理のない植生環境を構成することができ、枯れ・トラブルなどを少なく抑えることが可能とのことである。

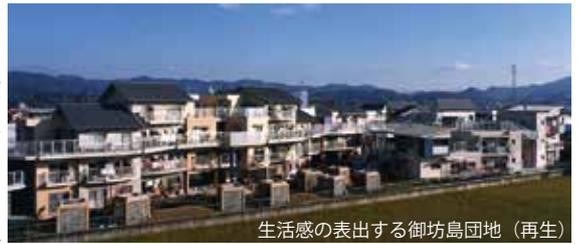
四季を通じて安定感のある緑は竣工後3年目を迎えてさらに生命力を増して生い茂っている。路地空間に提供された豊かな壁面緑化は、年を追うごとに周辺の景観に馴染みながら、街を歩きかう人々の目を楽しませている。

Question : これからの団地再生に必要な制度と専門家の職能とは何でしょうか？

Answer

1. ワークショップ (コーポラティブ) ハウジング

和歌山県御坊市宮島団地の再生事業は、中層団地の建替のプロジェクトである。周辺は独立住宅がほとんどというまちで、4階建てのいわゆる羊羹型のRC造の集合住宅がスラム化していた。周辺のまちなみと連続しながら、周辺も含めた環境を良くすると共に、なによりも、多くの生活保護に頼った世帯等、住民の生活意欲の回復、再生が重要な課題でもあった。そのため、周辺地域との融合性を意図したボリューム計画、住棟の分節化、地域性に配慮した景観計画、コミュニティ形成に配慮した閉じつつ開く囲み型配置、共用空間の豊富化、ワークショップ方式の導入、といった内容で、島団地の全体的な問題を解決しながら、地域の環境形成を図るというものであったが、何よりも大きかったのは住民と議論を重ねながら行うワークショップ (コーポラティブ) 方式の採用であった。結果的に、住民同士の話し合いの技術や住民の自主性が、一定の社会性の中で育まれた。市営住宅であるから、従来の平等・標準の観点からは想像しにくいこの建て替えプロジェクトであるが、予想されたように、矛盾を孕みながらも生き生きとした生活の表出が親しみのある新しい都市景観を形成している。



生活感の表出する御坊島団地 (再生)

2. スケルトン賃貸住宅という視点への再編

ストックを活用して大規模な団地再編を行う場合には、住民が住宅を作っていく、作り直していくという視点が特に重要だろう。前回の提案は、全ての住宅が専用庭を持つというものであったし、すでにUR賃貸の一部では、新規入居者に限っては、住民による住戸内の自主改装が認められ、現状復帰義務が解消されていることもお伝えした。いずれ、既存入居者にも同様の道が開けるであろう。もとより、住宅は住民の手で住まわれていくもので、住民が手を入れることができなければ、愛着のある住まいにはならないし、何となく他人任せの感じが風景にも表れてきてしまう。高齢者の人も、残りの人生を、自分の手で少しでも豊かなものにしようというのは当たり前の話で、専門家がそれを支援することが重要だ。そういった制度の再編が、コミュニティの再生や新しい団地風景の創出につながるに違いない。

景観ビジネス最前線



防災型景観ポール

避難誘導システム

STANDARD / FLAT / HYPOSTYLE

街並みに調和する三種類のデザインバリエーションと、熱押形鋼による独自のレールジョイント構造が特長です。避難誘導サインやソーラーパネルなど、防災に関する様々な機能を美しく設置できるので、景観整備に力を発揮します。

ヨシモトポール株式会社
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-10-1 (有楽町ビル 7F)
TEL 03-3214-1552 FAX 03-3212-1751

詳しくはWEBサイトをご覧ください。 <http://www.ypole.co.jp/>



避難誘導システム 歩道照明柱

ホワイトボード

TDAは設立から7年が経過、11月1日から宮沢功代表のもとに新体制に入った。新代表は団体としての活動を社会により広めることを目標にしている。ID界出身の視点から景観問題の領野も広がり会員増加も期待できそうだ。これに伴い事務局体制や拠点も変

わる。内山興亜さんの構想からはじまった機関紙「景観文化」もすでに23号へ、それなりに良質なメディアに育ち現在は行政、アカデミーに650部を送付している。継続は力なり。今後ともよろしく願いいたします。



NPO法人 景観デザイン支援機構 事務局

〒111-0043 東京都台東区駒形 1-5-6 金井ビル 3F Tel : 080-6722-4114 / Fax : 03-3847-3375
E-mail : main@tda-j.or.jp <http://www.tda-j.or.jp>

【編集：(株)アーバンプランニングネットワーク】 2013121000

私達は下記の企業・団体のご協力をいただいています。

(株)昌平不動産総合研究所 / (株)住軽日軽エンジニアリング / イオン(株)開発本部 / 都市環境デザイン会議 / (株)コトブキ / 三井不動産(株) / (株)都市環境研究所 / (株)読売広告社 / 都市生活研究所 / 関西ペイント販売(株) / 東京ガス豊洲開発(株)